

石渡歴史めぐり

(生い立ちの歴史と今)

石渡西端(長野運動公園側)から朝日を望む

石渡歴史めぐりと今

<コンテンツ>

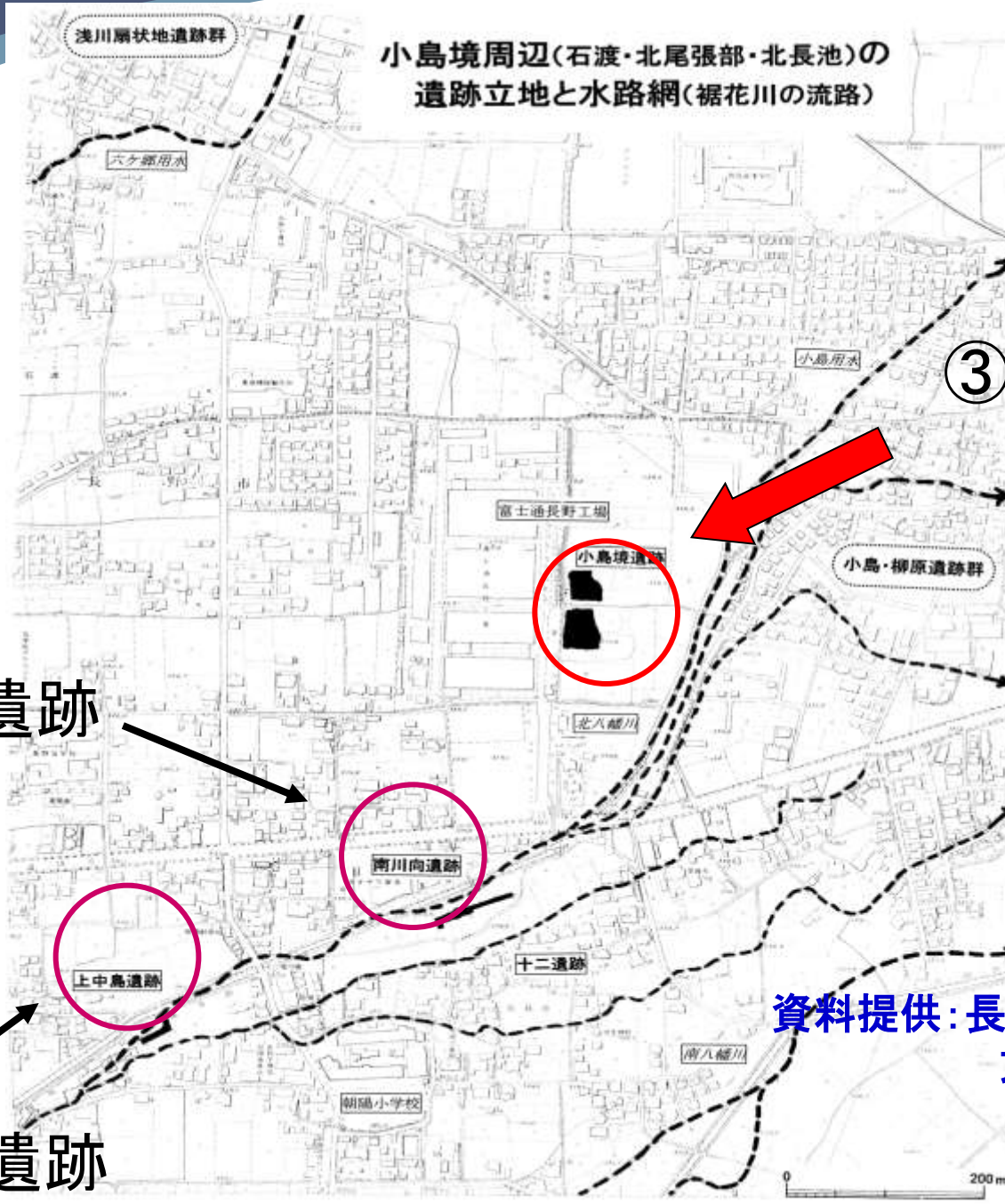
1. 石渡・生い立ちの歴史(小島境遺跡～石渡合戦～)
2. 朝陽村・長野県の誕生
3. 朝陽・石渡の概略図と世帯数・人口
4. 石渡歴史巡りMAP～現風景
5. 石渡地区内の伝統文化と文化財

1. 石渡の生い立ち

- ・名前の記載:「**石和田(石渡)と今井**」の村名が古文書に記述
→1329年(嘉歴4年)・諏訪上宮頭役結審下知状に記載
 <1192～鎌倉幕府、1338～室町幕府、1590秀吉天下統一>
 - ・室町時代(1448年・文安5年)**今井範貞・石渡戸隠岐守末範**
 という2郷に分かれ、2武士が石渡地区を支配
→諏訪神社祭礼金の割り当て帳「諏訪御符札古書」に記載
 - ・石渡は浅川扇状地末端に位置
 - ①地下水が高く、50cm～70cm位で水が出る
 - ②南側は「石渡たんぼ」＝水田地帯
- ☆古くから人が住んでいた
→「小島境遺跡」・・・竪穴式住居跡、土器が発掘

＜朝陽地区の遺跡分布＞

- ①南川向遺跡(昭和61年調査)・・・ロン都付近
→竪穴住居跡、高級食器が出土
- ②上中島遺跡(平成5年調査)・・・炭平ビル付近
→北八幡川沿いのムラ
竪穴住居跡(平安時代)
- ③**小島境遺跡**(昭和57.58年〃)・・・富士通東側
→古代のアクセサリー工房



③ 小島境遺跡

② 南川向遺跡

① 上中島遺跡

資料提供: 長野市埋蔵
文化財センター



小島境遺跡

(資料提供:長野市埋蔵文化財センター)



小島境遺跡 （資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

＜アクセサリー＞

＜砥石＞



小島境遺跡からの出土品

(資料提供:長野市埋蔵文化財センター)



小島境遺跡からの出土品（資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

2. 石渡での米の生産高(石高)

- ・慶長7年(1602年) 399石5斗3升7合
- ・天保4年(1647年) 402石3斗8升
- ・明治7年(1874年) 362石2斗7合

<参考:お米の単位>

1合=約180. 39 CC(ml)、 1升=10合、

1斗=10升=100合

1石=10斗=100升=1,000合・・・1人・1年間の米消費量
(1食1合、1日3食で3合、3合×365日=1,095合)

1俵=4斗=400合・・・重さ約60Kg

たわら
< 米 俵 > … 粳米4斗入る



(外径＝約40cm、長さ＝約80cm)
俵・10俵＝4石



(灯油18L缶)

一斗枡・・・4斗で俵→1俵
(内径=28cm、深さ=28cm)

3. 石渡の戸数と人口

- ・江戸時代の終わり～明治初期…………約50戸
- ・昭和32年には約2倍 ……………約100戸
- ・平成9年では団地造成等で増加 ……約800戸

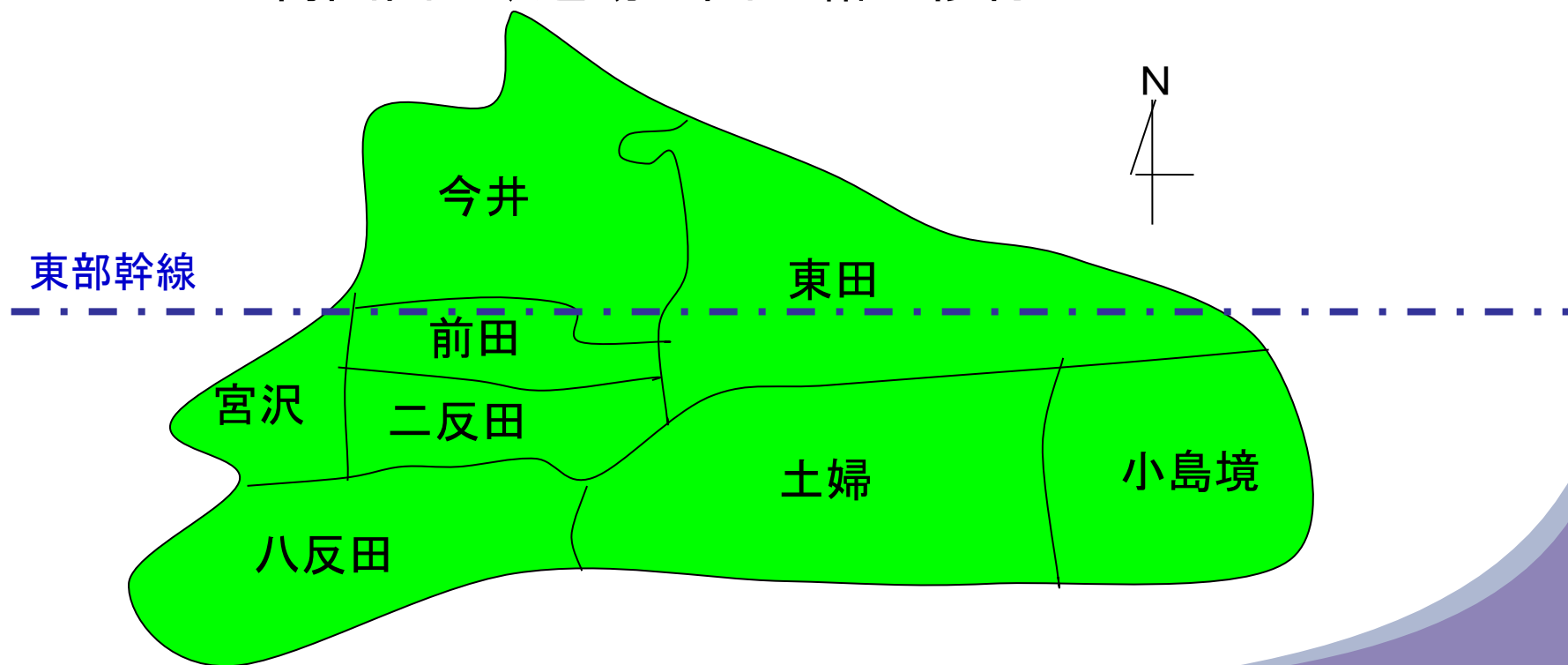
- * 安政3年(1856年)…… 48戸 ……236人
- * 明治元年(1868年)…… 50戸 ……263人
- * 明治21年(1888年)……155戸 ……722人
- * 平成9年(1997年)…… 780戸 ……2,320人
- * 平成27年(2015年)… 844戸 ……2,564人

4. 石渡の「小字」名称

＜土地登記簿に現存 → 大字 石渡 字〇〇＞

- ・明治18年(1885年)の地図によると、8つの小字があった
(東田の1番地～八反田の500番地まで)

(注) 小島境の一部は小島地区に、八反田・宮沢の一部は
梅園団地、運動公園地籍に移行



5. 石渡合戦と石渡館跡

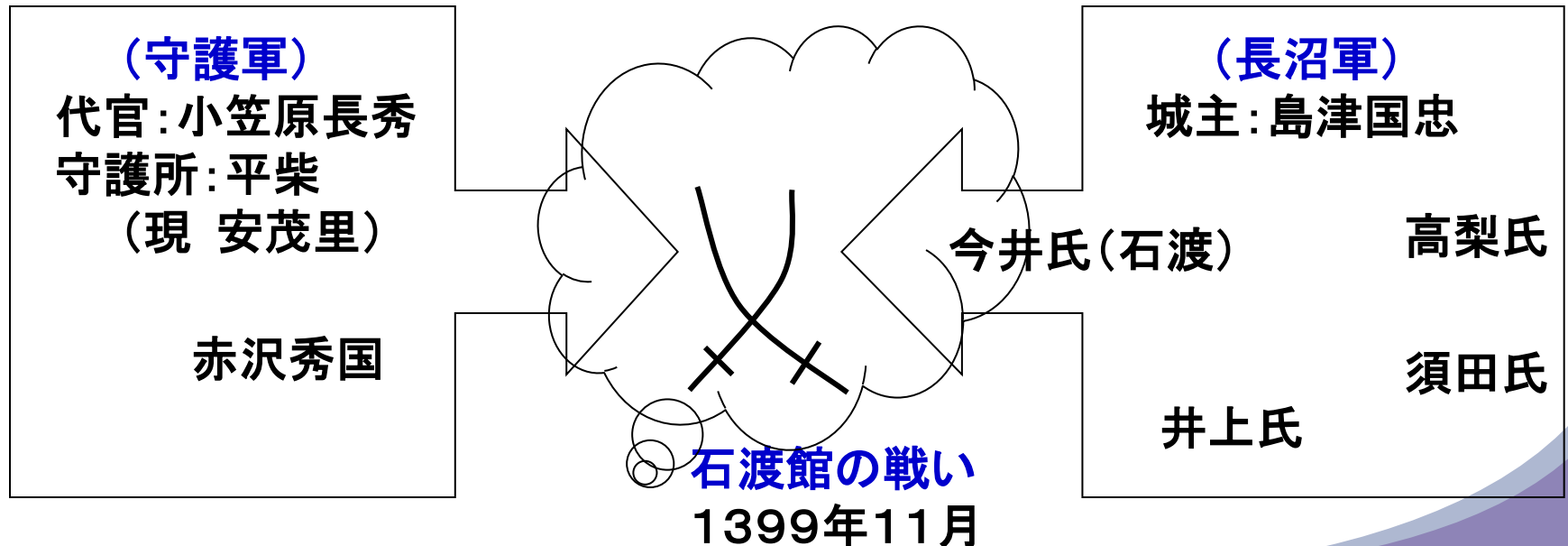
- 室町時代の信濃の守護(今の県知事)＝官領: 斯波(シバ)氏代理者の小笠原長秀は横暴で勝手な振る舞いをしていた。
- 小笠原に反発した長沼城主の島津国忠等に対し兵を向けた。長沼配下の今井氏居城＝石渡館を攻めた(1399年11月)
- <石渡館>＝現: 高山三良様の屋敷
 - 館の大きさ: 巾は約2間(約3.6m)の堀に囲まれ、1辺が40間(約73m)の方形(四角形)
 - 現在は、北側の堀の一部と、西側の土塁の一部を残す。昭和初期までは東北西の3方に堀があった。

<石渡合戦と石渡館>

時代背景(南北朝～室町時代)

地方での内乱が続いている中、信濃の守護(今の県知事)は幕府の官僚欺波(シバ)氏が務め、現地代理者が武士達の抵抗に苦戦していた。

その対策として小笠原長秀を着任させたが、彼の横暴な振る舞いに、長沼城主(島津国忠)と周辺の高梨・須田・井上等の武士が反抗していたため、守護軍は鎮圧のため、同志の石渡館(今井氏)を攻め一戦を交えた。



とき 歴史薫るまち 長沼

長沼城跡と史跡・句碑

(小倉藩町)



長沼城跡の碑

長沼城跡

長沼城は戦国史上名高い「川中島の戦い」にも登場した城です。江戸時代の中前期(1688年)に廃城となり、現在、城の遺跡はほとんどありませんが、古堀跡や検地帳、地籍図などをもとに現地調査を進めた結果、320年余の跡を窺って、長沼城跡が解ってきました。この城跡図はその史料を元に想定し作成した図です。南北約650m、東西約500mにおよぶ大きな城域です。

あなたも「古城のロマン」を求めて、散策してみませんか。
長沼地区住民自治協議会・長沼歴史研究会

長沼城跡復元図



一茶の句碑

一茶と長沼十哲句碑

一茶と長沼十哲の碑

- | | | |
|--------|------|------|
| ① 松井松宇 | 西島士英 | 中村梅斗 |
| ② 住田素雄 | 村松春雨 | 吉村雲士 |
| ③ 立花呂芳 | 佐藤魚測 | |
| ④ 白川月好 | 吉村雲士 | |
| ⑤ 村松春雨 | 立花呂芳 | |
| ⑥ 住田素雄 | 若槻二休 | |
| ⑦ 松井松宇 | 佐藤魚測 | |
| ⑧ 西島士英 | 中村梅斗 | |
| ⑨ 小林一茶 | 長沼十哲 | |
| ⑩ 若槻二休 | 小林一茶 | |
| ⑪ 小林一茶 | ⑫ まで | |
| ⑫ 佐藤魚測 | 小林一茶 | |
| ⑬ 若槻二休 | | |
| ⑭ 村松春雨 | | |
| ⑮ 西島士英 | | |

長沼の概要

長沼は、戦国時代の頃から名がれ始めたといわれ、鎌倉時代には越前氏が館を構えて近郊を支配した。戦国時代には武田氏支配のもとに、長沼城が築かれ、海軍城と並び北信濃統治の中心となり、重要な軍事拠点となった。江戸時代には北国街道の宿場町として賑わい、井田・小林一茶がたびたびこの地に逗留し、長沼十哲と号した門人たちが生まれている。千曲川と荒川に挟まれ、水害の常襲地であったが、明治維新には、水害に強いいりごの戦地を始めた。たゆまぬ努力の結果、今では県下有数の産地となっている。地区内には数多くの社寺など貴重な文化遺産が点在し、今もなお住居が散見される。

〔歴史薫るまち(長沼)史跡巡りマップ〕は、アグリながぬま店内及び長沼支所・長沼公民館にあります。



<長沼城址>

6. 道路

- ・石渡たんぼと言われている水田では稲作が盛んで人馬が通れるほどの道がありました。
- ・時代が進み運搬に荷車やリヤカーを使用するようになり、戦後は耕運機も通れるように、道も幾分改良されました。
- ・神社前には「山道」と呼ばれた尾張部～三才への主要道が南北に走り、「道祖神」が神社前に祀られている。
- ・東部幹線道路(石渡区内を南北に分断)平成9年開通。

<参考>

- ・長野電鉄線は大正15年に須坂～権堂間が開通
「朝陽駅」が新設され、石渡の最寄の駅となる。
昭和31年に複線化、S59年に「附属中学前駅」新設
- ・バスは「石渡バス停」(権堂～石渡～豊野の路線)新設
昭和45年～57年 長野駅～南堀団地の路線
平成8年には廃線となる。

7. 用水

「用水は農民の命！」……水争いの歴史

- ・石渡田んぼ＝水田地帯へ北八幡川から取水＝「六ヶ郷用水」
- ・昔は家の雑排水、風呂の水、井戸の流し水は、川へは流さずに、田や畑の肥料に活用した。
- ・近年、川がコンクリート舗装に整備された為、都市型水害が問題となり、「雨水調整池」が作られた。
- ・「水不足 → 洪水対策」の時代に変化

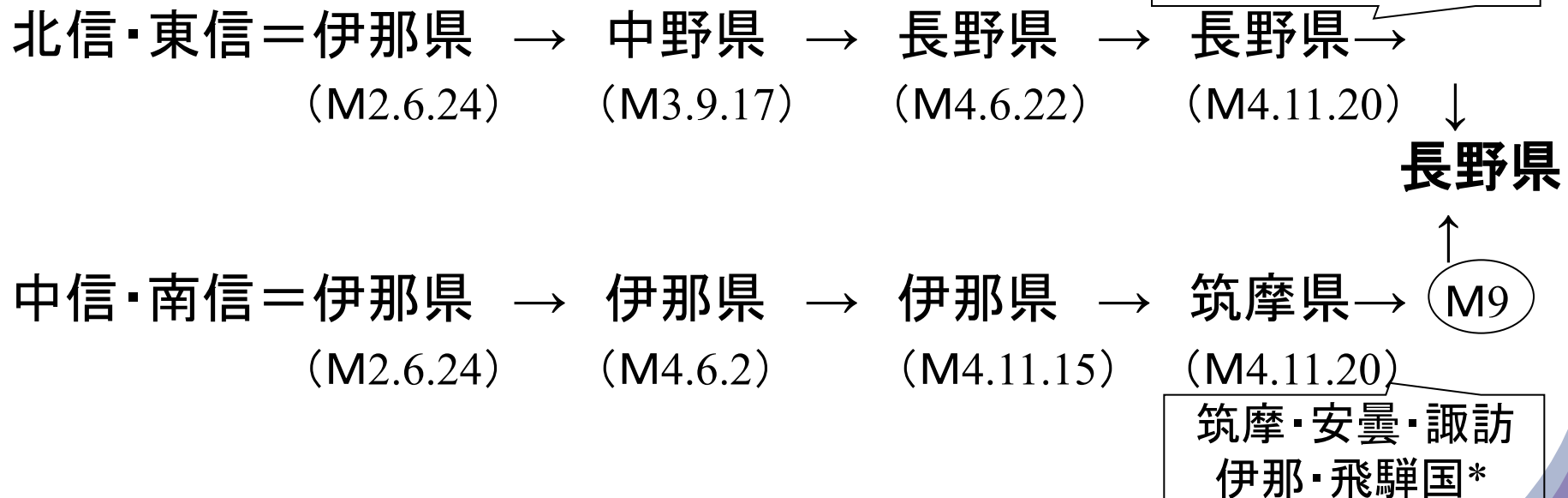
＜朝陽村の歴史＞

- 明治4年(1871): 廃藩置県が施行、同年7月松代藩領だった
石渡・福島新田(現北屋島)・北長池・北尾張部・南堀・北堀の
各村は松代県の管下、土屋坊村(現南屋島)は須坂県の管下
- 同年11月長野県の管轄下に移行した。
- 明治9年(1876): **石渡**・南堀・北堀村が合併し「福田村」となる。
- 明治14年(1881): 福田村は分村し、元に戻る。
- 明治19年(1886): 北屋島と南屋島が合併し「屋島村」となる。
- **明治22年(1889)**: 町村制が施行: **石渡村**、屋島村、北長池村、
北尾張部村、南堀村、北堀村の6村が合併し「**朝陽村**」誕生！
(その後、屋島は行政上、南屋島区、北屋島区に分割)
- <規模: 人口 2,4867人、515戸、水田240ha、畑194ha>
- 「朝陽村」名称の由来・・・この地域は南東にやや傾斜しており、
朝陽を受け、陽が昇るように村を発展させたいとの願い！！
- * 長野市への合併: 昭和29年(1954)
合併時の人口 4,347人、784戸

<長野県の誕生>

・明治9年(1876):長野県と筑摩県の合併により1つの長野県誕生

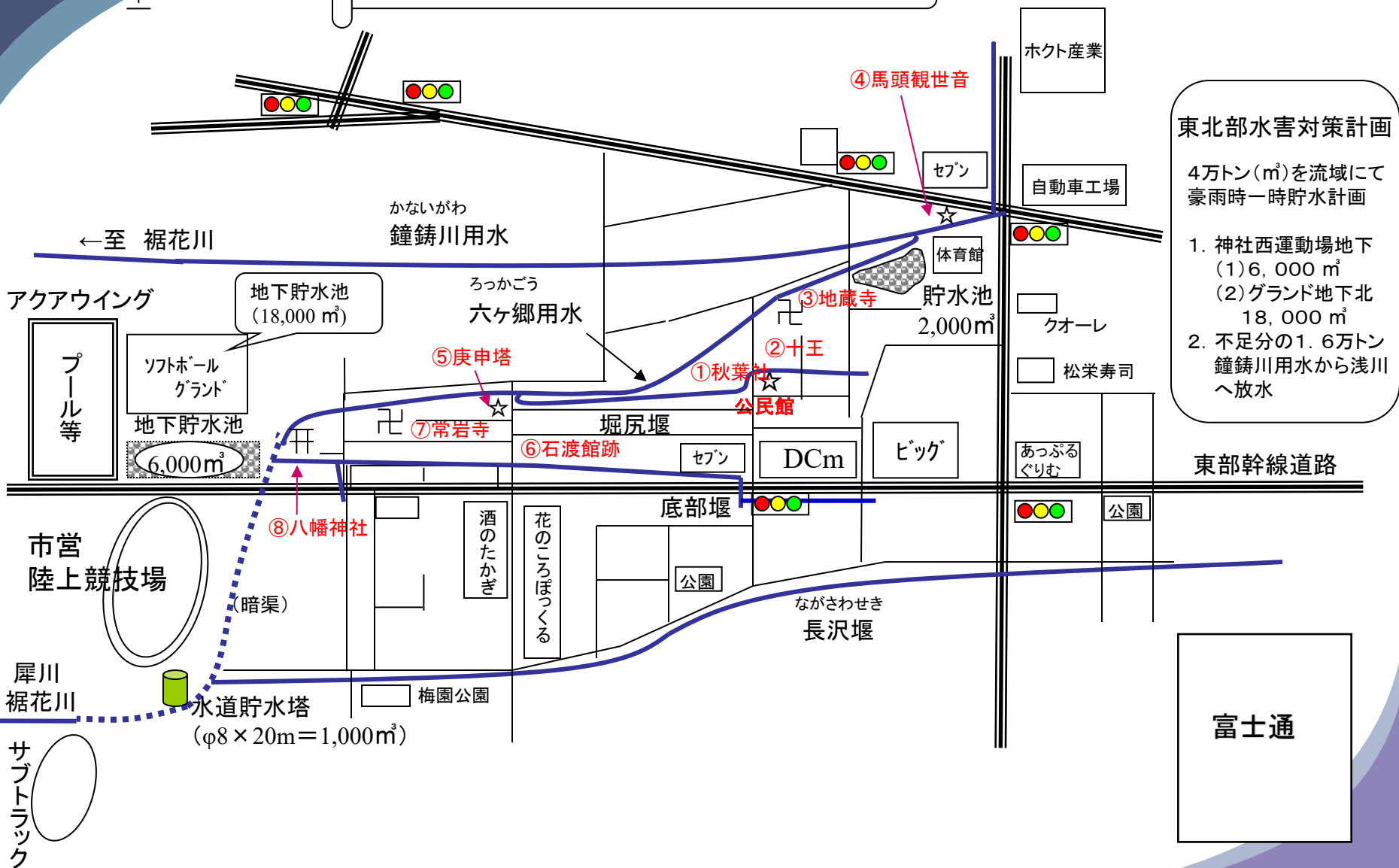
・1つの長野県誕生までの経過



(*後に岐阜県に移行)

石渡MAP

N



東北部水害対策計画

4万トン(m³)を流域にて
豪雨時一時貯水計画

1. 神社西運動場地下
(1) 6,000 m³
(2) グランド地下北
18,000 m³
2. 不足分の1.6万トン
鐘鑄川用水から浅川
へ放水

朝陽・石渡地区の データと概略地図

1. 朝陽地区の世帯数と人口

(世帯数・人口は2025年12月1日現在)

地区名	世帯数	人口	男	女
南屋島	352	780	381	399
北屋島	184	470	229	241
北長池	1082	2502	1259	1243
北尾張部	1097	2446	1221	1225
石 渡	1106	2594	1262	1332
南 堀	1208	2651	1282	1369
北 堀	1135	2516	1218	1298
桜新町	356	853	399	454
合計	6520	14812	7251	7561

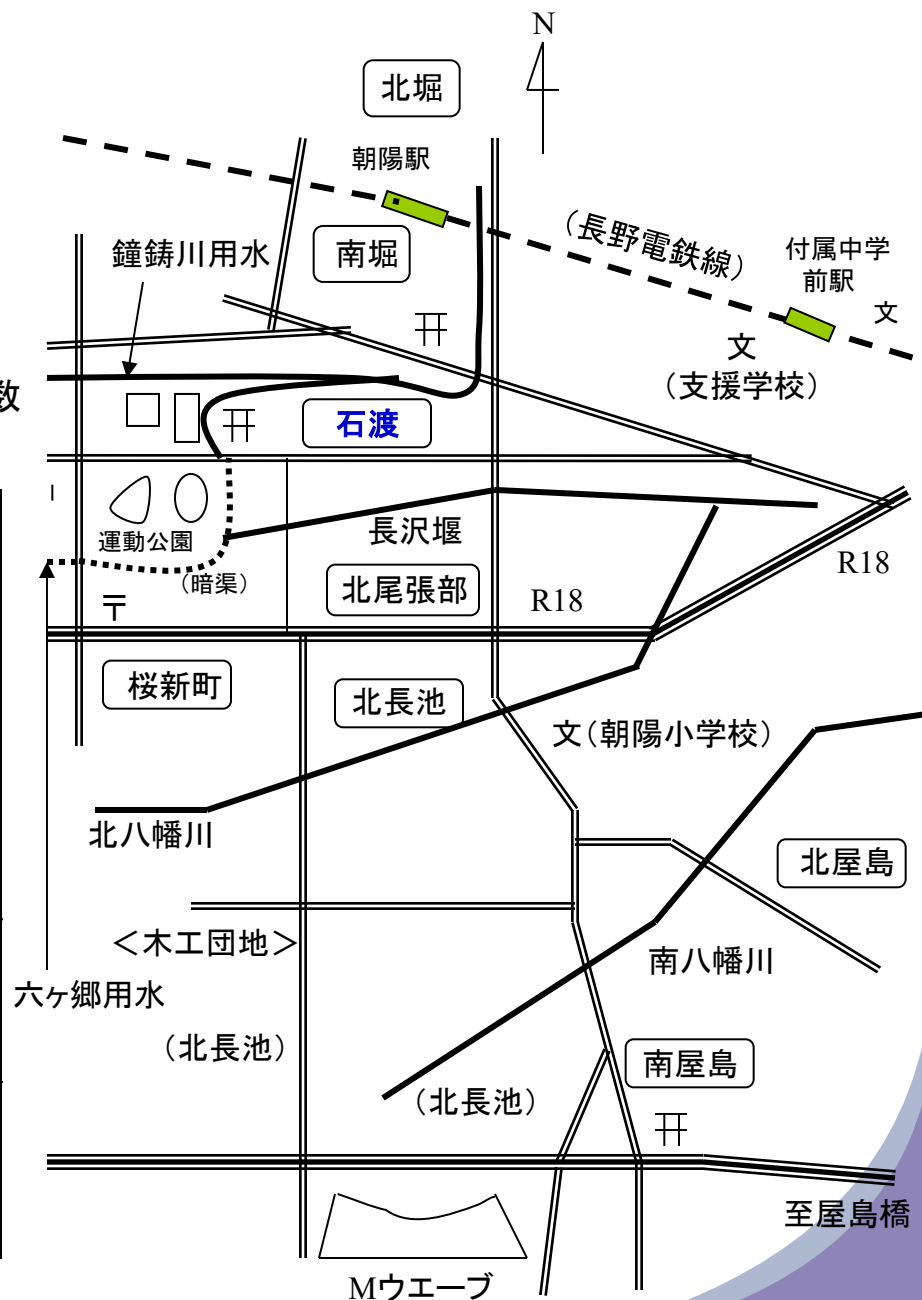
2. 石渡区の常会別戸数

(戸数は2025年9月現在)

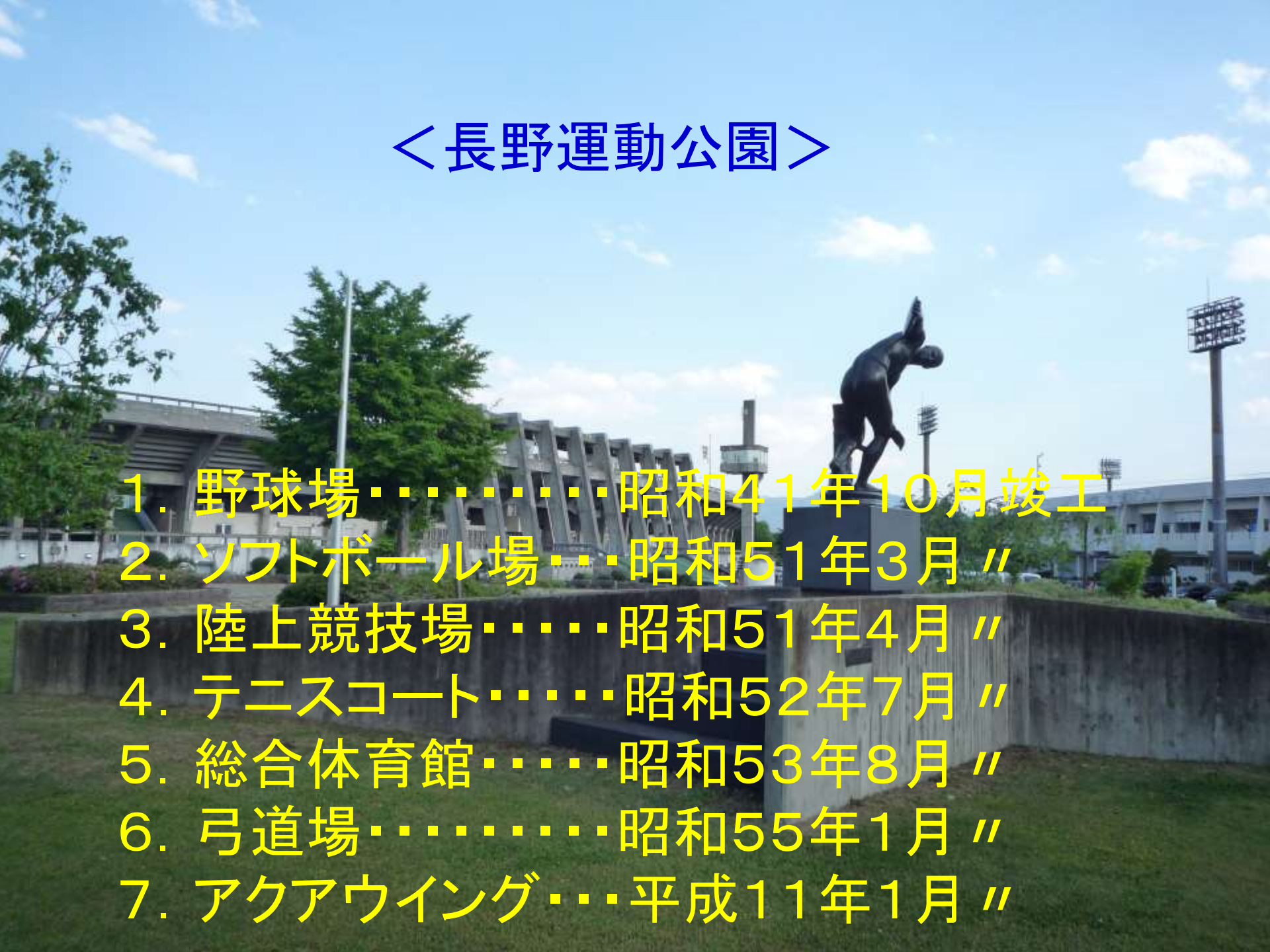
常会	戸数	組 数
1	173	11組
2	126	8組
3	92	5組
4	78	5組
5	59	4組
6	106	5組
7	78	4組
8	112	5組
9	78	4組

<地区名と行政区は一致しないことがあります>

Σ 902戸 51組



＜長野運動公園＞

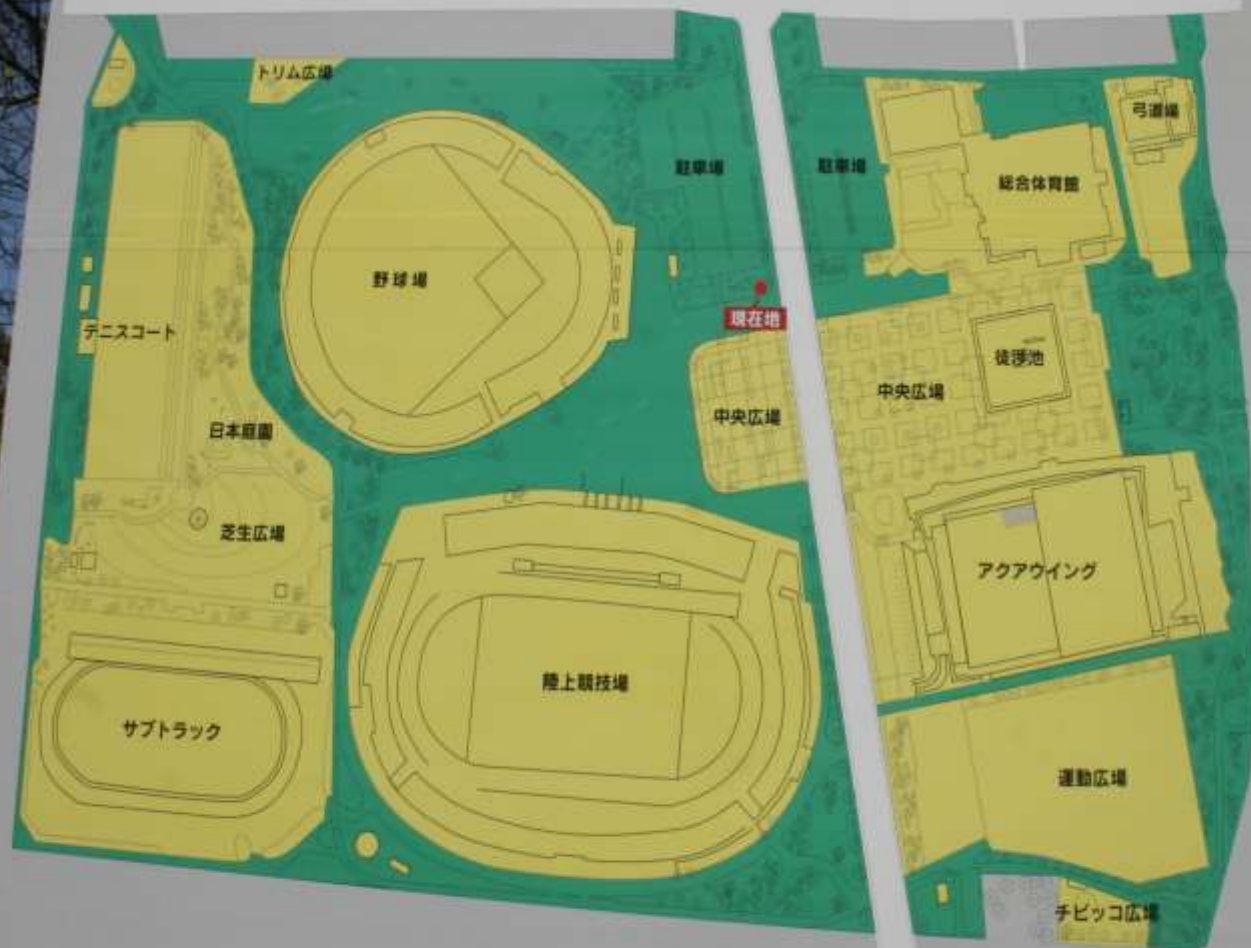
- 
1. 野球場・・・・・・昭和41年10月竣工
 2. ソフトボール場・・・昭和51年3月 //
 3. 陸上競技場・・・・昭和51年4月 //
 4. テニスコート・・・・昭和52年7月 //
 5. 総合体育館・・・・昭和53年8月 //
 6. 弓道場・・・・・・昭和55年1月 //
 7. アクアウイング・・・平成11年1月 //



犬の散歩のできる公園

※散歩区域の確認をお願いします。

長野運動公園



犬の散歩ができる区域

犬の散歩禁止区域

犬の散歩をするときは、
次のことを守ってください。

1. 犬を連れて入ってよい区域と、いけない区域を守ること。
2. 犬は常に引き綱等でつなくこと。
3. フンは持ち帰ること。
4. 犬に水浴びをさせたり、ブラッシングをしないこと。
5. そのほか、他人に恐怖感を与えたり、迷惑となる行為はしないこと。

長野市公園緑地課
長野運動公園管理事務所

長野運動公園 南側 ウォーキングコース

①② 全長1500m 16分/1周

体重別やや速歩(93m/分)で歩いた場合の消費カロリー

45kg/54kcal	50kg/60kcal	55kg/66kcal
60kg/72kcal	65kg/78kcal	70kg/85kcal

③ 全長2250m 24分/1周

体重別やや速歩(93m/分)で歩いた場合の消費カロリー

45kg/81kcal	50kg/90kcal	55kg/99kcal
60kg/108kcal	65kg/117kcal	70kg/126kcal



石渡地区内の伝統文化と文化財 及び各種インフラ設備

1. 秋葉大権現と道祖神(公民館前)
2. 延命山地蔵寺
3. 十王像
4. 馬頭観音と寒念仏
5. 庚申塔
6. 石渡館(現:高山三良様宅)
7. 興隆山常岩寺
8. 八幡神社と俳額

神社

長野県神社庁理事
齋藤吉仁謹書

秋葉大権現と道祖神

秋葉大権現と道祖神

秋葉社は、火伏せ・火難除けの神である。この社は、弘化四年（一八四七）村内に火事が多発したことから建てられたといわれている。

道祖神は、村内に悪疫などの侵入を防いだり、後に猿田彦と結び、旅人の安全を守る道の神となったり、縁結びの神、生産の神などいろいろな信仰の対象となっている。

平成十三年八月

石渡区



CISTERN
水そう
74
20℃



十三

延命山地蔵寺



地藏寺

延命山地蔵寺

地蔵寺は、上水内郡信州新町中牧の曹洞宗清水寺の末寺である。本尊は、延命地蔵尊で、享保二年（一七一七）、別峯宗見和尚や、小山田主膳（石渡村を支配した武士）によって寺が創建された。本堂は、享保五年（一七二〇）六月に建てられた。

のち本堂は、弘化四年（一八四七）の善光寺地震で倒壊、安政六年（一八五九）に再建されたもので、本堂の額は永平寺管長北野元峯の筆によるものである。

明治七年一月地蔵寺に、寺子屋をそのままひきついだ博文学校（明治八年二月新徳学校と名称変更）が開校した。その後、高田学校石渡支校、朝陽尋常小学校石渡派出所となり、明治二四年北尾張部に朝陽小学校が開校するまで校舎として使用していた。

境内には、宝篋印塔（宝暦十四年一一七六四）、万霊塔二基（寛政十二年一一八〇〇、慶応三年一一八六七）や十王などがまつられている。十王は、現在の公民館の敷地にあつた、十王堂に安置されていたものである。中央に据えられた地蔵菩薩や、奪衣婆などそろって現存していて、朝陽地区では珍しい石仏である。

平成十三年八月

石渡区



延命山地蔵寺(西側)⇒解体(2025.6)



延命山地蔵寺(西側)⇒解体(2025.6)



＜十王像＞（中国風の服装・顔つきも？）

十王

十王信仰は、中国で成立し、日本では江戸中期以降一般に広まった。

生前犯した罪により、あの世で初七日に秦広王しんこうおうの裁きを受けるのを最初に、以後十四日・二一日：三年忌まで、次々に各王の裁きを受け罪の軽重を判定される。

十王像は、中国的な色彩が濃く異様な顔つきや服装をしている。

平成十三年八月

石渡区



馬頭観世音と寒念仏
馬頭観世音は、六臂四頭の菩薩で、馬の頭を持つ。寒念仏は、冬の厳しい寒さをしのぐための修行で、坐して念仏を唱える。この二つは、冬の厳しい寒さをしのぐための修行で、坐して念仏を唱える。この二つは、冬の厳しい寒さをしのぐための修行で、坐して念仏を唱える。

火の用心
長野市消防局
長野市消防局
長野市消防局
長野市消防局

馬頭観世音と寒念仏
(石渡・南堀交差点)

馬頭観世音と寒念仏

馬頭観音は、六観音や七観音の一つで、馬の供養や無病息災などを祈願して建てられた。

北側の橋を観音橋とい
い一休みと祈りの場所
であつた。

この塔の裏側に「寒念
仏同行中」とある。寒中
三〇日間、寒夜に村々な
どを巡り鉦をたたき念仏
を唱えた。塔は、寒念仏
講の供養塔である。

平成十三年八月

石渡区



雨水調整池
(朝陽体育館の西)



鐘鑄川用水の上流
(西方向)を見る
(朝陽体育館の北)


(参考)

東



かないがわ
鐘鑄川用水(石渡西端
から東方向を見る)





雨水調整池
(朝陽体育館の西)

この右側で六ヶ郷用水が鐘鑄川用水に合流



地蔵寺の裏から六ヶ郷
用水の上流(西)を見る



庚申塔

庚申塔

(明暦三年造立)

庚申信仰は、十干十二支の組み合わせで六〇日ごとに回ってくる庚申の夜に行う行事で、もとは中国の道教にある。

庚申の夜は、三戸^{さんし}という虫が体内から抜け出し天に昇り、天帝にその人の悪業を告げ早死させる。この夜は、三戸の虫が昇天しないよう徹夜した。

この塔は、長野市内では古いものの一つである。

平成十三年八月 石渡区

堀尻堰



堀尻堰



庚申塔



六ヶ郷用水(左・東方向へ流れる)



池尻堰(左)と六ヶ郷用水(右)



石渡館(現:高山三良様宅)



石渡館周囲には堀が廻らされていた



石渡館の周囲には堀が廻らされていた



興隆山常岩寺

(右:みかさ幼稚園)

興隆山常岩寺

常岩寺は、金箱の曹洞宗信叟寺の末寺で、本尊は釈迦如来である。しゃかにょらい永禄九年（一五六六）興山豊隆和尚によつて創建された。豊隆和尚は、宗祖道元禅師から数えて十五世の法孫で、信叟寺や吉田の天周院、押鐘の盛伝寺を建てたり繁栄させた。

境内や墓地には、地藏菩薩・六地藏・宝篋印塔・万霊塔がある。境内の入り口に建てられている「禁葷酒」と刻まれている結界石や、朝陽地区では珍しい読誦塔、どくしょうとう更には、倉沢光寛・長谷川儀平治の筆塚がある。

倉沢光寛は、常岩寺の住職で、寺子屋の師匠もやり村内の子弟に読み書きを教えた。長谷川儀平治は、読み書きとともに花を教えた。

境内にあつた不動堂は、区民の集会場として昭和初期まで使用していた。不動明王は、現在本堂内に安置されている。

常岩寺で運営している、学校法人興隆学園みかさ幼稚園は、近在では歴史が古く、昭和三〇年ころから多数の子供が入園している。


平成十三年八月

石渡区





常岩寺の裏(西側)



このコンクリート道路の下に
六ヶ郷用水が（暗渠）



このゲートボール場の
下に雨水調整池が！



このソフトボール場の
下に雨水調整池が！



雨水調整池排水ポンプ
変圧器(キューピクル)



底部堰

管理者 六ヶ村用水組合

土水を固める働きをします

六ヶ郷用水の八幡神社
南から分水

長沢堰が分水



このコンクリート歩道の下に
六ヶ郷用水が流れている(暗渠)

いづもみひヨッ

長 沢 堰

管理者 六ヶ村用水組合

千代田県農業改良区



八幡神社



八幡神社



八幡神社

八幡神社の祭神は、はつむねのめいじん菅田別命である。もと曹洞宗地蔵寺の境内にあつたが、天文三年（一五三四）現在地に移ったといわれている。領主石渡戸氏の氏神ともいわれている。

天正年間（一五七三～一五九二）に、字二反田にあつた諏訪社（ただけあながだのみこと建御名方命・やまがためのみこと八坂刀売命）を八幡社に一緒にまつたといわれている。

秋祭りは体育の日、春祭りは四月吉日、七年に一度御柱祭が行なわれる。

八幡社の棟札には、天明七年（一七八七）神主深沢土佐正藤原直賀、大工棟梁徳永七郎右衛門や村役らの名が書かれている。

拝殿内には、文政六年（一八二三）と文政十年（一八二七）の俳句額が掲げられている。小林一茶の名もある。また、拝殿正面の彫刻は素晴らしいものである。

昭和三〇年ころまで行われていた、伊勢社や諏訪社の代参の費用は、諏訪田、伊勢田といわれている田からの収入でまかなっていた。

境内には、庚申塔・道祖神・蚕神・惣魂神などがある。惣魂社の下には、境内から出土した五輪塔が埋めてある。

神社前の道は、山道と呼ばれ尾張部から三才山までの主要道路であつた。

平成十三年八月

石渡区



（文政六年奉納俳額）



（文政十年奉納俳額）

石渡八幡神社の俳額

この八幡神社には、信濃町出身の俳人小林一茶（一七六三～一八二七）が亡くなる数か月前の最晩年期の文政十年（一八二七）に選句し、奉納した俳額があります。

この俳額には、一茶だけでなく、有力な弟子たちが顔をそろえて句を出し協力しており、一茶、最晩年期の北信・善光寺周辺の俳壇総顔見せといっても過言ではない貴重なものです。

なお、この八幡神社には文政六年（一八一三）に奉納された額もあり、一茶自身による選句ではありませんが、こちらにも一茶の句が掲額されています。

小林一茶の俳句

◎文政六年奉納俳額

めでたさハ 今年の蚊にもくはれけり

◎文政十年奉納俳額

鈴がらり がらり朝顔 くちり咲

令和元年（二〇一九年）九月 石渡区

石渡八幡神社
（信濃町）
（文政十年奉納俳額）

拝殿前に設置した俳額説明板

文政6年奉納の俳額





一万度



一万度

文政10年奉納の俳額



拝殿正面上・龍の彫刻

白露戦没忠魂碑

忠魂碑

蚕の神





総魂霊神

惣魂神

<引用・参考文献等>

◎ ふるさと朝陽

(長野市制100周年記念誌)


(朝陽地区市制100周年記念事業

実行委員会 2003年2月1日発行)

◎幕末の信州～近代への序章～

(郷土出版社 2008年11月17日発行)

◎ 長野市埋蔵文化財センター



これからも安心・安全な
住み良い石渡に！

石渡・東端から東部幹線・西方向を望む

＜制作担当：廣澤一由＞